

令和4年度第1回 藤島地域教育振興会議 会議録（概要）

1 会議の開催概要

- 日 時 令和4年10月7日（金）18時30分～20時15分
- 場 所 藤島地区地域活動センター大ホール
- 出席委員 18人（うち代理出席1人）
齋藤昭彦、叶野明美（代理：沓澤実）、成田信一、高橋俊一、近藤直志、菅原治、
今野貴行、加藤正広、中田英幸、上林祐樹、佐藤謙、安在堅、前田範子、
渡部高生、遠田良弘、井上佳奈子、齋藤直美、武田洋
- 市出席者 〈教育委員会〉
教育長 布川敦、教育部長 本間明、参事兼管理課長 清野健、
学校教育課長 成澤和則、学校教育課指導主幹 渡邊智、
管理課庶務主査 奥山真裕、学校教育課指導専門員 落合正幸
〈藤島庁舎〉
支所長 成田讓、総務企画課長 小林正雄、市民福祉課長 長谷川郁子、
総務企画課地域まちづくり企画調整主査 齋藤優、総務課主査 後藤春雄
- 傍聴者 7人
- 会議次第
 - 1 開会
 - 2 挨拶（鶴岡市教育委員会教育長、鶴岡市藤島庁舎支所長）
 - 3 藤島地域教育振興会議の設置について 資料No.1
 - 4 委員長・副委員長の選出について
委員長 渡前地区自治振興会長 近藤直志 委員
副委員長 藤島中学校PTA会長 中田英幸 委員
 - 5 説明・協議
 - (1) 藤島地域教育環境の現状と課題について 資料No.2
 - (2) 「鶴岡型小中一貫教育」の推進について（案） 資料No.3
 - (3) その他
 - 6 その他
 - 7 閉会

2 会議録

■次第5（1）藤島地域教育環境の現状と課題について

（管理課長）資料No.2を説明

（委員長）事務局から児童生徒数の推移が具体的な数値で示された。小学校では藤島小、渡前小が70%まで減っていく。また、渡前小では複式学級が発生し、東栄小でも将来的に複式学級が見込まれるとの話だった。中学校についても、資料では10年度となっているが、グラフから16年度までに55%まで生徒数が減少するとのこと。令和6年度には鶴岡に中高一貫校が開校し、市内中学生がある程度進学することを考えると、かなり中学生が減ることも見込まれるとのことであった。校舎関係の老朽化の問題についても説明頂いた。説明を聞いて委員から何か質問や確認したいことなどご発言いただきたい。

（委員）中高一貫校は県の教育機関で小中一貫校は市の教育機関という認識でよろしいか。

（学校教育課長）そのとおり。

（委員）少子化が進むにつれ、小中一貫校は進めなければならないものと感じている。校舎をどうするかは今後の課題であるが、スポーツの観点から中学校の地域移行を含めて、新校舎には屋外ナイター設備を付けてもらいたいことを提案する。体育館施設ももちろんだが、屋外スポーツの環境を整えば、中学校の地域移行も含め、さまざまな利点があると感じた。

（委員長）将来的な要望とお聞きした。

（委員）小中一貫はやることが決まったのか。

（学校教育課長）後ほど詳しく説明するが、小中一貫教育は令和7年度から進めていく判断をしている。

（委員）人口が減るので子供も減るのは分かるし、校舎も古くなっているのも分かる。我々は何を相談すればいいのか。この後、小中一貫の説明があるとのことだが、それを聞いて藤島では小中一貫はできないということを考えてもいいのか。

（学校教育課長）後ほど詳しく説明申し上げる。

（委員長）小中一貫教育を進めることは市の教育方針として打ち出されているとのことである。誤解を招くのは、「小中一貫校」と「小中一貫教育」を混せて捉える可能性がある。その点は、教育委員会の説明を聞き混乱しないように整理していきたい。

■次第5（2）「鶴岡型小中一貫教育」の推進について（案）

（学校教育課長）資料No.3を説明

（委員長）鶴岡市として、教育現場の現状と課題を踏まえて、地域とともにある学校づくり、コ

コミュニティスクールと小中一貫教育を両輪として課題解決に向かい、鶴岡市の教育目標の達成を図っていくという方針で進めていきたいとのことである。小中一貫教育についても、様々な形態についてメリット、デメリットを説明頂いた。藤島として、最終的に小中一貫教育の形態のどれかを選択して進めていかなければならないが、本日は第1回目の会議なので、説明頂いた内容で分からない点、理解しにくい点があると思うので、できるだけご質問を詳しく頂き整理し、次回に向かいたい。

(委員) 鶴岡型小中一貫教育について、形態が3つあることは理解したが、3点質問する。1点目は、併設型小中一貫校の場合、全体として各中学校区で小中一貫校を考えていくことになるが、藤島の場合、藤島小、東栄小、渡前小が統合することを前提にしているのか。2点目は、義務教育学校の場合、9年間一貫した教育とのことだが、小学校の卒業式などイベントはなく、9年間を通して終業となるのか。3点目は、中高一貫校が開校するが、小中一貫校で学ぶ子どもが、中高一貫校の中等部に進学を希望する場合、小学校終業時点で、中高一貫校に進学しようとしたときの扱いはどうなるのか。

(学校教育課長) 1点目について、一概に統合ではない。例えば、藤島地域では3つ小学校が統合せず併設型一貫校を設置することは可能である。あるいは、統合して1つの小学校になり中学校と併設型一貫校となることも可能である。2点目について、正式な入学式と卒業式は、小学校1年生になるときに入学式、中学校3年生での卒業式となる。他の学校の例をみると、小学校にあたる前期課程を終了するときに何かイベントをするという実践例がある。3点目について、小学校時に履修しなければならない学習内容等は当然履修することになるので、そのまま、県立中高一貫校に進学することは可能であり問題はない。

(委員長) 併設型一貫校の場合、中学校1校に対して小学校が3校に分かれていても、教育方針や教育目標は一貫して教育を行うことができるとのことである。連携型との区別が難しいが、先々、小学校が統合して小学校1校、中学校1校となっても併設型として小中一貫教育が可能であるということである。入学式、卒業式について、義務教育学校の場合、正式なものは1回ずつだが、区切りをつけるためにイベントとして修了式を設けるところもあるという紹介であった。途中、小学校課程を終えた段階で中高一貫校に進学することについて、小学校6年間で全て履修するので、中高一貫校に進学することは可能とのことである。

(委員) 今までの説明で一番不足しているのは、教育は子どものためにあり、どのような教育しようとしているのかである。先生が教育をするので、3つの小学校にそれぞれ校長がいて先生がいるわけだが、小中一貫として小学校と中学校と連携するといっても、地域としては各々である。小学校の卒業式をしようすれば小学校の校長がいるのでできるだろうし、子どもにとってどのような影響があるのか。教育内容をこうしたいという方向に結びつけないと小中一貫のゴールがどこにあるのか疑問である。

(学校教育課長) 併設型小学校中学校の場合、それぞれの学校に校長がいて職員組織があり、修

業年限も小学校は6年、中学校は3年で、それぞれが入学式、卒業式を行う。先ほど申し上げたのは、義務教育学校で修業年限が9年間になる学校だと、入学式と卒業式は1回となる。

(委員) 子どもの立場で考えると、小中一貫という目標があり、その目標は最初はできない。形ばかりで3校の小学校と1校の中学校があり、組織もそれぞれあり、一貫校になりにくい点がたくさんあると思う。学校教育以外のコミュニティも同じで、それぞれの地域があるので一概にこうだと言われてもできないと思う。先生が行ったり来たりするのはよいと思うが、それには先生の負担もある。子どもたちが少なくなるなかで、よりよい教育をしようとしているのに小学校3校をそのまま残して、複式学級も残すことの関係もはっきりしない。

(学校教育課長) 小学校を統合せずに3校そのままの形で併設型一貫校を設置した場合は、委員がご指摘したことが懸念されると思う。ただ、小中一貫教育は、それぞれの校長がいて、それぞれの職員組織があったとしても、9年間で目指す子ども像を共通理解するようにする。各学校には教育目標があるが、小学校1年生から中学校3年生までの9年間で、こういった子供に育てるということを小学校、中学校の先生方で共通理解し、目指す子ども像を基にそれぞれの小学校、中学校の教育目標、教育内容を検討していく形で小中一貫教育を進めていこうと考えている。併設型で行う場合、先ほどデメリットで申し上げた通り、懸念されることは当然あると考えている。

(委員長) いろいろな形態ごとにメリット、デメリットがあるので、それを踏まえながら、どのような小中一貫がよいのか、これから皆さんの意見を伺いながら議論していきたい。1、2回の説明をお聞きしても理解しがたい部分もあるので、資料をもう一度読み返すなど、私たちが1つ1つ理解することも大事である。本日は1つ1つを理解していくことに力点を置き意見交換したい。

(委員) 藤島の状況をみたくて、鶴岡市として藤島ではどの形態がベターか、現時点でのおすすめプランがあればそのプランと理由を教えてください。

(学校教育課長) おすすめプランはもっていない。まず、このような形で小中一貫教育を進めていくことを説明し、藤島地域の実情に応じて、保護者の皆さん、地域の皆さんのご意見やお考えを聞きながら、教育委員会で検討していくスタイルで進めていこうと考えており、教育委員会から提案することはない。

(教育長) 中高一貫校の先進事例として、佐賀県武雄市にある中高一貫校を見学した。佐賀県では4つの公立中高一貫校があり、武雄の一貫校は鶴岡南と鶴岡北のように校舎が分かれている分離型であった。他の3つの中高一貫校は、校舎一体型、分離型など様々な形態があった。それは地域特性と地域の方々のご意見を伺いながらつくったとのことで、4つの地域に4つの中高一貫校をつくり、それぞれの良さを学びながら、お互いに良さを生かそうと取り組んでいた。武雄の一貫校は分離型なので、校長が中学校に1人、高校に1人の2人いて、中学校、高校それぞれですぐに決断しやすいとのことだった。品川の小中一貫校も視察した。区

立のプールが1階にあり、授業の時はそのプールを借り学校はプールを管理する必要がないものだった。中学校の武道館も整備されており、見学時は大雨だったので、避難されている住民もいた。昼敷きで安心して避難できていたようだ。学童も合築されていた。学校教育課長が申し上げたとおり、教育委員会がプランを示すのではなく、藤島にとって一番よいプランは何かをぜひ皆様からお考えいただきたい。皆様のお知恵を頂きたいのでよろしく願います。

(委員) 本日の資料にはデメリットがしっかりと記載され、教育委員会でもデメリットがあるという認識をもっているのですが、これをどのように解決しながら、小中一貫校の是非を協議していくのが、会議委員に課せられていることと感じている。12ページの今後のスケジュールだが、全市の中学校ブロックで令和7年度以降、全市で小中一貫校スタイルを目指していくという方針を掲げていきたいのか確認したい。そうすると、この藤島地域教育会議では、中学校改築の絡みもあることから先行してやっているという受け止め方でよいか確認したい。

(学校教育課長) 令和7年度以降、小中一貫校を進めるということではない。小中一貫教育を令和7年度からスタートさせる。3つの形態があるので、一貫校をつくらずに一貫教育を進めていく地域も当然あると思う。また、藤島地域教育振興会議で検討頂くのは、教育長の挨拶にもあったように、藤島中学校の改築を迎える現状があることから、藤島地域の教育環境を総合的に考えていくために、これから進める小中一貫教育を、保護者、地域の皆様にも説明していかなければならないと考え、この藤島地域教育振興会議で説明しているものである。

(委員長) まだまだ小中一貫教育と小中一貫校と捉え方が混乱する場面が多々あるようなので、その違いについて資料を見ながら確認する必要がある。時間が超過したので、(3)のその他に移りたい。

■次第5 (3) その他について

(管理課長) 今回の藤島地域教育振興会議では、小中一貫教育、小中一貫校の理解をさらに深めるため、県内初の義務教育学校・新庄市立萩野学園の関係者を招き、公開で開催する旨を提案

(委員長) 県内で義務教育学校としてスタートしている萩野学園についてお聞きして理解を深めたいとのご提案だったがいかが。特に異議がないので、今回の準備を進めて頂きたい。他に委員からないか。

(委員) 設置要綱の件で確認したい。委員の任期は令和5年度末で、組織代表委員は、団体の役員を終えた以後も委員を継続することができるとなっている。自治振興会長をやめても藤島地域教育振興会議には関わらなければならないのか。新しい会長はどうなるのか。

(管理課長) 今年度4回の会議を開催し、小中一貫教育について理解を深めて頂いた委員の皆様

が、来年度に役職が代わり新しい人に交代した場合、一から理解を深めて頂くことは非常に難しいと思う。それぞれの団体で、新たな会長ではなく、前会長のお立場でご参加いただくこともあるかと考えているので、それぞれの組織の中でご検討頂きたい。

(委員)「ふるさと鶴岡を愛する、いのち輝く人間の育成」だが、ここは藤島地域で、地域によって強い弱いがあると思う。それが弱い地域にとって、子どもの教育にどうプラスになるのか。

(委員長) 教育目標として掲げているものの理解についてだが、藤島も鶴岡である。

(学校教育課長) 市町村合併した際に、新たな教育目標としてつくった目標である。当然、藤島地域も他地域も全て入った言葉として「鶴岡」を用いている。

3 会議資料一覧

- ・ 次第
- ・ 藤島地域教育振興会議設置要綱
- ・ 出席者名簿・席次
- ・ 資料No.1-1 藤島地域教育振興会議について
- ・ 資料No.1-2 今後のスケジュール
- ・ 資料No.1別紙 令和4年度第1回藤島地域振興懇談会での主な意見
- ・ 資料No.2-1 藤島中学校区の教育環境の現状と課題（小学校児童数の推移）
- ・ 資料No.2-2 藤島中学校区の教育環境の現状と課題（中学校生徒数の推移）
- ・ 資料No.2-3 藤島中学校区の教育環境の現状と課題（学級数の推移）
- ・ 資料No.2-4 藤島地域小中学校の施設面での現状と課題（藤島中、藤島小）
- ・ 資料No.2-5 藤島地域小中学校の施設面での現状と課題（東栄小、渡前小）
- ・ 資料No.3-1 「鶴岡型小中一貫教育」の推進について（案）
 - 1 学校教育の現状と課題
- ・ 資料No.3-2 2 課題解決に向けた施策
- ・ 資料No.3-3 3 小中連携教育と小中一貫教育の違い
- ・ 資料No.3-4 4 鶴岡型小中一貫教育の概要
- ・ 資料No.3-5 資料「鶴岡型小中一貫教育」の3つの形態
 - (1) 既存の中学校ブロックの形態を維持（一貫校はつくらない）
- ・ 資料No.3-6 (2) 併設型小学校・中学校
- ・ 資料No.3-7 (3) 義務教育学校
- ・ 参考資料No.1 これまでの地域振興懇談会で出された主な意見等（R3年度 第1～3回）
- ・ 参考資料No.2 藤島中学校周辺施設位置図
- ・ 参考資料No.3 藤島地域小中学校の施設面での共通の現状と課題
- ・ 参考資料No.4 鶴岡型小中一貫教育を進めるにあたってのQ&A集（第1版）

以 上